

◆「大声のお経 事件」

【射貫くように 私の眼を覗いて、更に大声で】

白装束の修行中のお婆さんが一人、河津浜にゆくトンネル近辺に仁王立ち、
「ニチダ〜イ・ファイトウ、 ファイト〜ウ・ニチダイツ、 ワッショイ、
ワッショイ」の掛声の団員で練習場に走る太鼓を担いだ 私にである。
「この左の崖に落ちたら、練習に参加しなくて済む、でも命は、あるよね？」
私は、ふと崖下を確認した、その直後の【大声のお経】であった。
それほど3~4日目位の練習は、自分にはとてもとても厳しく感じた。
この80~90歳くらいのお婆さんに

「ズルい私の心が見透かされた」ととても悔しく恥ずかしくもなり、
以後死ぬ？事をも覚悟して「お芝居」を考える事を止めた。

「本気」で生きる「瞬間」であった。

このお婆さんが「私に」「そこで」「お経で」「カツを入れてくれた」

事が非常に良かった。(数十年後 崖下を確認したら、うまく落ちれば木の枝に引っ掛かり軽いケガで済みそうであった、が“笑”)

「婆さんが狂ったようにお経を唱えていたなあ」とは当時の団員の言葉。このHPにて約40年ぶりにはじめて回答。



◆「下足番 事件」

この合宿では、各団員の運動靴を練習後に水洗いする仕事が、先輩から私に与えられた。豊臣秀吉氏も下足番を経験したモンネ！と思いつつ、しかし私の場合は秀吉氏と違い「私利私欲」。“笑” 各先輩のスキをみて「頭から水をあびる」、この「幸せ」は当時は見逃せないノダッ！

◆「なぜ応援団の学ランは長いの？ 事件」

今井浜の合宿 最後の夜、某テレビ局がどう調査したか「お問い合わせ電話」が合宿所にあった。

「そんなもん知るか」と私は思ったが、一つ上の先輩が「エールをきる時お腹が出ない為です」と答えた。

「なーるほど」、「お前知らなかったの?」、との同期KT氏。ストレスの極致からか 玄関で同期とつかみ合い、やがて殴り合いの大喧嘩。殴り、殴られ、途中で先輩に止められたがバックドロップで頭に大きなタンコブ。応援団生活は「ストレス」どころでは無い環境なノダッ！

◆「お金が無くなる 事件」

伊豆 今井浜の合宿が無事？終わり、先輩が合宿費約40万円を合宿所に支払おうとした時、金庫に入れていた現金が無いのである。

(各学生が、授業の間にアルバイト等で稼ぎ 集めた合宿費なのに、)

金庫の暗証番号は、一部の先輩と監督しか知らない。監督が朝から行方不明。

「これこそが、応援団」「他部では、あり得ない」「マ・マ・マンガと同じ？(練習の厳しさはマンガ以上だけ)」

そして、「どんな事でも 例え理不尽な事でも、押忍 の心で対応する」とも、感じた。

が、、合宿所のオーナーには迷惑を掛けられない。

F先輩等がオーナーとどうにか約束、後日 お金を都合(先輩方が学生ローン等をして)、先輩と二人 今井浜に支払いに行った。

合宿所のオーナーは「寿司とビール」を用意して出してくれた、「スシ ビール」泣ける程 美味しかったノダッ！ “笑”

★ 一所懸命に、逃げずに、4年間やらなければ本当の価値が解ら無い、大学の応援団道。

「利他の心」に成長し、それが日本・世界の人々に少しでも多く伝われば、その分「[世界が平和に近づく](#)」と感じています。

※ 「フェイク情報は無し」が鉄則です。(信頼をいつしか失うので)

【情報を制する者は世界を制す】 「正直な記録の作成・その重要性」を広めてゆきたい。